

儲かる磯根漁業をめざした経営改善に関する研究

(予算区分 県単独 研究期間 平成 26~28 年度)

担当 : 水産技術研究所 伊豆分場 高木康次

【研究の背景とねらい】

伊豆地域の磯根資源（イセエビ、アワビ、サザエ、テングサ等）は、漁獲対象としてだけでなく、伊豆地域へ観光客を呼び込む観光資源として多くの漁業者が生活の糧としてきましたが、近年では漁業者の高齢化等により磯根漁業の存続が懸念される地域もみられています。

本研究では、伊豆の磯根資源を代表するテングサを対象として、利用実態を把握するとともに、若い世代が参入しやすい新しい漁業経営の改善手法を提案します。

【研究成果】

- ・テングサ漁を行う経営体は、東伊豆町から伊豆市土肥までの 8 地区に 305 経営体ありました。漁獲金額が 10 万円以下が 120 経営体と最も多いものの、50 万円以上も 68 経営体あることが分かりました。
- ・伊豆地区は、漁獲量と入札金額の関係から 3 つに分類することができ、価格の上昇と漁獲の増加の取り組みが必要と考えられました(図 1)。
- ・近年伊豆のテングサは、全国的な漁獲量減少に伴い価格が高騰しており、漁獲金額増加のためには、テングサを増産する生産体制強化が必要であることが分かりました。
- ・荒廃したテングサ漁場から雑藻を除去することで、テングサの被度が増加して漁場回復効果が認められました。しかし、回復速度が遅いため移植、増殖等により回復を促進させる必要があることが分かりました(図 2)。
- ・稲取地区では、漁協が地元ダイビングショップのダイバーを雇用してテングサを採捕する新たな漁業形態を進めています。そこで、ダイバーと漁業者の協働によるテングサ漁場の雑藻駆除活動を指導しました。これにより、テングサ漁場の生育量の増加と担い手の多様化が期待されます。

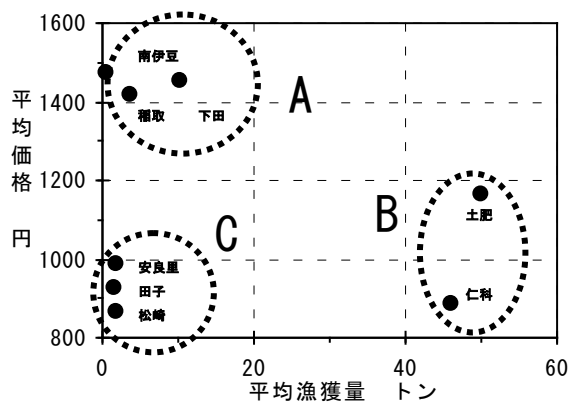


図 1 漁獲量と価格による地区の類型化

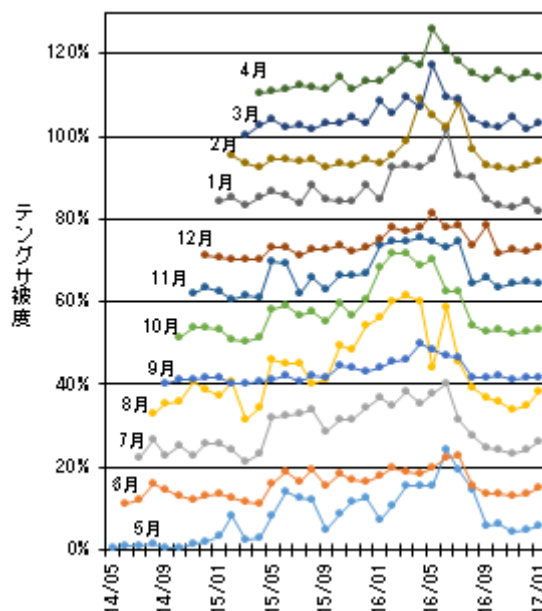


図 2 雑藻駆除区別のテングサ被度の推移

【研究成果の普及方法】

- ・稲取地区に対して、引き続きこれまでの取り組みを支援していきます。
- ・他地区へも研究成果を普及し、テングサ増産による経営改善の取り組みを指導していきます。
(作成 平成 29 年 3 月)